

天竜区緑恵台土砂崩落に係る第三者による技術的検証会（第2回）概要

●技術的検証会（第2回）では、第1回（11/15開催）の際に次回報告するとしていた内容について検証した。



1. 発生メカニズムの推定、検証

- ①素因：雨水が集水しやすい沢状地形の斜面に盛り土がされていた。
- ②誘因：緑恵台の近傍観測地点のうち、気象庁のアメダス天竜観測所の被災時降水量（時間最大降水量：81.5mm/h・日最大降水量：264.5mm）は、1976年の観測開始以降最大であった。

2. 土質試験結果・造成盛土斜面の安定性評価

- ①盛り土除去後、造成盛土の法面が露出するが、崩落時に湧水が確認されていることから、応急対策が完了したと判断するためには、地下水の影響について評価した斜面の安定性の照査が必要となる。
- ②安定性評価は、宅地造成における盛土等の一般的な設計基準となる「宅地防災マニュアルの解説」に基づき実施した。
- ③現地で採取した試料を用いて土質試験を実施し、造成盛土斜面の安定性評価に必要な土質定数を決定した。

3. 残存盛り土対策

- ①盛り土除去
 - ・残存盛り土を除去し、造成盛土の法面を安定勾配の1:1.8（約30度）で整形し、高さ5m毎に幅1mの小段を設置。
- ②排水対策
 - ・斜面内の地下水位を下げ斜面を安定させるため地下水排除工を施工。
 - ・降雨の斜面内への浸透を防ぐため法面に小段排水および縦排水を整備し、併せて流末排水路を整備して既設水路へ接続。

※①・②の施工内容・位置等は右図参照

